

医師減少に伴う病院改革は

問 医師減少に歯止めがかからない深刻な状況をどう打開するか。また、今年度末で整形外科が撤退すると聞いているが、総合病院でなくなっていく現状に病院長の見通しは

答 大学からの派遣医師の撤退に加え、過酷な労働状況の勤務医を辞め、開業に走る医師が増えている。浜医大と当病院とのつながりを強めて、学長等と面談し派遣の依頼をしている。インターネットを介し医師の確保にも取り組み、ホームページで病院の宣伝をして獲得を図っている。

介護保険制度改善に

対する市の支援策は

問 介護保険制度の改善で、本来の目的である自立への

応援制度が、負担が重くなって、目的から外れてくる。部屋代や食事代が全額個人負担となり、今まであった家事援助（炊事や洗濯）などのサービスを削ってしまった。サービスの制限が自立を妨げて一層悪い方向に進みかねない。国民年金生活者の月額受給額は平均4万6千円で、重くなって入所できなくなる。市は支援策を考えているか

答 介護保険制度は、同じ要介護状態であれば、住宅でも施設でも給付と負担は公平であるべき。見直しにあたっては、低所得者の施設利用が困難にならないよう、減免制度の運用の改善、高額介護サービス費の見直しなど、国において配慮がされている。改正の周知徹底を図り、介護保険制度を着実に運用していきま

環境保全について

問 国民調査によると環境に対する関心は高い発表がありましたが。温室効果ガスが大量に空气中に放出されこのことにより平均気温が上昇する現象が起きています。干ばつや水不足、集中豪雨、海岸の侵食等多くの問題を抱えています。本年二月京都議定書の発効により日本における温室効果ガス6%削減に向け全国民で積極的に取り組むこととなりました。そこで、御前崎市の取り組みを伺います。

問 紙の大量消費等による東南アジアでの森林伐採が環境悪化を招いています。再生紙の利用、用紙類の使用量の削減、発行物の対応については

います。パソコン等の利用によるペーパーレスの推進や、印刷物の両面活用と減量化を図ります。

問 省エネ機器、器具の採用により効果が期待できます。また、室内設定を必要以上に下げないことも必要です。県庁では来庁者にノーネクタイ、ノー上着を呼びかけています。国でも軽装での執務を推進しています。御前崎市におけるエネルギー使用量の抑制計画については

答 蛍光灯等照明器具はエコ製品を購入し、昼の休憩時間等、消灯の励行に努めています。庁舎の空調システムは、環境にやさしく深夜電力で賄うエコアイス方式で、過度な冷暖房にならないよう努めています。

答 用紙類は原則古紙配合率100%の再生紙を購入して